

(3) みどりを^{まも}る村づくり

自然は人間にやすらぎとうるおいを与えてくれるとともに健康で文化的な生活を送っていくために大切なものですが、その自然は一度破壊^はされてしまうとなかなかもとどおりにはなりません。この村にはみどり豊かな自然が豊富^{ほうふ}にあります。わたしたちはこの自然をつかって楽しむなどの恩恵^{おんけい}をうけるかわりに積極的^{せっきよくてき}に守っていかねばなりません。村では現在、自然環境^{かんきやう}をまもるためにいろいろなことをおこなっています。たとえば、下水^{じやうか}の浄化施設の建設もそうです。以前は各家庭から出される生活排水^{はいすい}は付近^{ふきん}の川に直接流していました。生活様式^{ようしき}の変化にともなって、現在では家庭排水に環境汚染^{おせん}につながるいろいろなものが含まれているため、たれ流しにすることは自然をまもるためにはよいことではありません。村が喜多方市や塩川町の上流に位置するということを考えて、各家庭へ浄化槽設置^{じやうか そう}や共同下水道の建設をすすめており、環境汚染をふせぐ、いわば“自然に優しいむらづくり”をめざしています。

2. わたしたちの未来にむかって

これからの将来^{しやうらい}、日本はどのように変わっていくのでしょうか。高度情報化^{こうじやうほうか}、高齢化^{こうれいか}、国際化^{こくさいか}など社会情勢^{しゃかいじやうせい}がめまぐるしく変化するこんにち、それを的確^{てきかく}に予想^{よそう}することはむずかしいことです。とうぜん、この村の将来もおなじです。

でも、どんなに社会が変わってもわたしたちが守っていかねばならないものがあります。わたしたちの住むこの村、“あつしおかのう”にはほかの地域^{くわ}と比べてすばらしいものが多くあります。6月上旬^{じゅうじゆん}に山の斜面^{しゃめん}一面^{ひがしたてやま}に咲く東館山のひめさゆりや、伝・佐原義連^{でん さわらよしつら}の墓^{はか}や